

## 地域で働く大人が先生となって、子どもたちの職業観を育む

- 第1回キャリア教育アワード 小宮山審査委員長賞（準グランプリ）
- 第1回キャリア教育推進連携表彰 最優秀賞

### 横須賀商工会議所〈神奈川県〉



「子どもたちが自分の将来に夢を持ってほしい」という目的のもと、2008年に横須賀商工会議所が主体となり、教育委員会、市と立ち上げた「よこすかキャリア教育推進事業」。地域で働く大人を「マイタウンティーチャー」と位置づけ、働くことについて理論、実践、総括を積み上げることで、子どもたちや参加企業に大きな気づきと成長というメリットをもたらしている。

#### ■産業界が主体となってキャリア教育に参画

横須賀商工会議所が「よこすかキャリア教育推進事業」に乗り出して14年が経過した。「横須賀で働く大人はみんな先生」をコンセプトに、地元企業に勤める社会人が講師となって市内の中学2年生を対象に授業を行い、職業観や仕事への気づきをもたらそうという取り組みだ。現在、同事業には市内にある全23校が参加し、受講生徒数は延べ約2万5,000人、協力企業数は延べ2,200社にも上る。

同事業を立ち上げた背景には、2004年から、年々増加する若年無業者を対象にキャリアサポートを展開する中で、産業界が義務教育段階から積極的にキャリア教育に関わらなければ、将来の地域産業を担う人材を育てられないという思いがあった。

そこで同所が主体となり、市や市教育委員会と連携して、「よこすかキャリア教育推進事業事務局」を設置。子どもたちに働くことの意義や夢を描くことの大切さを伝えようと、「中学生自分“再発見”プロジェクト」を立ち上げた。そして、会員企業には社員研修として活用してほしいと声掛けし、学校に対しては教育委員会が主体となってプロジェクトへの参加を呼びかけた。その結果、初年度の参加校は2校、協力企業は40社で取り組みをスタートした。

#### ■子どもたちと参加企業の双方にメリット

プロジェクトの主な内容は、ポスターセッション、マナー研修、グループディスカッション、キャリア講演会だ。ポスターセッションは、働くことへの気づきを得るために、仕事の紹介をするプログラム。マナー研修は、あいさつや名刺交換、電話対応など、基本的なビジネスマナーを覚える体験型授業。グループディスカッションは、職場体験学習後に行う振り返りのプログラムで、企業の人とディスカッションを行う。これらを通じてさまざまな仕事に触れ、働く意義や喜びを知り、地域産業への理解を深めることを目指す。

「講師を務める方をマイタウンティーチャー（以下、MTT）と呼んでいます。MTTは、子どもたちに自分の



ポスターセッションで売り物の花を生徒に実際に見せて仕事内容を教える MTT

仕事の話をしたり、実技をやって見せたり、体験させたりします。そうした中で、自分の経験ややりがいに感じていること、つらかったこと、それをどう乗り越えたかなども話して聞かせます。毎回子どもたちの食いつきが良く、MTTは質問攻めにあっていますよ」と、かつて中学校で校長を歴任し、現在同所で3代目キャリア教育コーディネーターを務める大場智和さんは目を細める。

子どもたちにとっては、学校の授業では得られない体験ができる貴重な機会だ。一方、企業側にもメリットがある。企業は研修と位置づけて、若手社員をMTTに指名している。指名された社員は「働くとは何か」を、中学生にも伝える言葉で話さなければならないため、コミュニケーションの勉強になり、大いに成長して帰ってくるそうだ。

また、学校の先生方や講師を務めた企業が参加するMTT交流会は、先生とMTTが地域の子どものためという目的意識を共有し、関係を構築する場になっている。



マナー研修でお辞儀の仕方を学ぶ。職場体験前に基本的なビジネスマナーを身につける



海運会社によるキャリア講演会。地元の海や観光地の話に生徒は積極的に手を挙げる

#### ■参加企業の業種を増やすことが今後の課題

市内全域で実績を上げている同事業だが、当初は教育界と産業界の間に大きな壁があった。

「教育委員会を介しているとはいえ、学校からすれば、地元の会社が自社の宣伝や金儲けのためにやっているのではないか、という思いがあったようです。また、MTTは教師ではないので、子どもたちに余計なことや教育的に間違ったことを教えてしまうのではないか、という意識があったことも事実です」（大場さん）

しかし、学校側の懸念は早々に解消していった。初年度に参加した2校の校長から「やってよかった」という口コミが広がっていったのだ。また、元校長がコーディネーターを務め、両者の橋渡し役を担ったことも功を奏し、2年目には5校、3年目には9校と増えていき、今では市内全中学校が参加する。

このプログラムを開始当初に受けた子どもたちはすでに成人している。大学生になった子どもがMTTを務めた会社のアルバイトに応募してきた例や、MTTの言葉をきっかけにホテルマンになる夢を叶えた例もある。子どもたちはキャリア教育を通じて、確実に刺激を受け、成長している。

2020年は新型コロナウイルスの影響で活動は全面中



職場体験学習後に行われるグループディスカッション。生徒からの質問に介護福祉のやりがいを話す MTT



講師を務めた企業と先生が参加するMTT交流会。地域の子どものためという目的に向け、力を合わせる

止となったが、21年は学校からの多数の要望を受け、一部プログラムを実施した。今やこの取り組みは教育現場にもすっかり定着し、大きな期待が寄せられている。

「最近では、農家や漁業者が参加するなど業種の幅は広がっていますが、まだ偏りがあります。この事業への参加がいかに価値があるかをもっと多くの企業に発信し、さらにMTTを増やしていきたいです」（大場さん）

2021年10月には、同事業の周知・参加拡大を図り、プロジェクトに協力した全参加企業に対し、学校教育への貢献に感謝の気持ちを示す「金メダルステッカー」を配布した。これは企業側からも大変好評で、会社の入り口などの目立つところに掲示する企業もあるという。

地域の大人たちの危機感から始まった事業は、長年の産業界と教育界の積み重ねによって、さらに地域全体で子どもたちを支える取り組みとして広がろうとしている。



中学校の校長を歴任したキャリア教育コーディネーターの大場智和さんが中心となり取り組みを推進



本事業に協力する企業に配布された「金メダルステッカー」（右）と拡大パネル（左）。現在の協力企業は271社

#### POINT

- 商工会議所内にキャリア教育推進事業事務局を設置し、校長を歴任してきた「キャリア教育コーディネーター」が企業と学校をつなぐことで、円滑に事業を実施している
- 「中学生にわかりやすく、仕事の意義ややりがいについて説明する」ことがMTT自身の成長につながり、企業側も人材育成としてメリットを感じている
- MTT交流会で「地域の子どものため」という目的意識を共有し、企業と先生の連携を深めている